

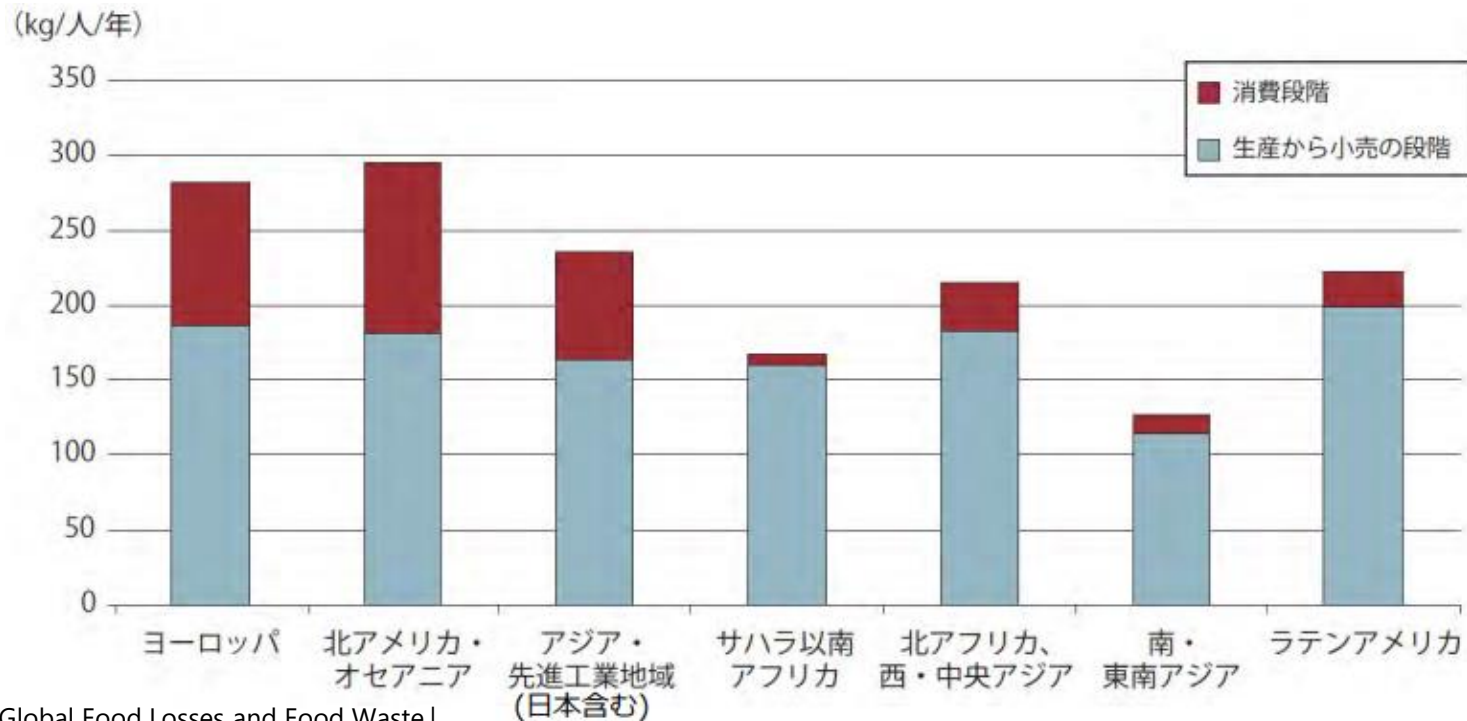
1. 食のサステナビリティに関する国際的な潮流

- 1-1 気候変動
- 1-2 森林・生物多様性
- 1-3 食品ロス・廃プラ
- 1-4 人権・労働
- 1-5 品質・安全
- 1-6 健康・栄養
- 1-7 動物福祉

世界の食品ロスの実態

- 世界全体では、人間の消費向けに生産された食料の約1/3にあたる、年間約13億トンが廃棄されている
- 2011年にFAOが発行した「Global Food Losses and Food Waste」によると、1人当たりの食品ロスでは、開発途上国よりも先進国の方が無駄にしている食料が多いことを指摘している
- 低所得国では、フードサプライチェーンの初期あるいは途中の段階で失われることが多く、消費段階で捨てられる量は僅か
- 一方、中・高所得国では、主としてサプライチェーンの各アクター間の協調の欠如と消費者の習慣に原因。食料はかなりの割合が消費の段階で無駄にされる

各地域における1人当たりの食料ロスと廃棄量



(出所) FAO「Global Food Losses and Food Waste」

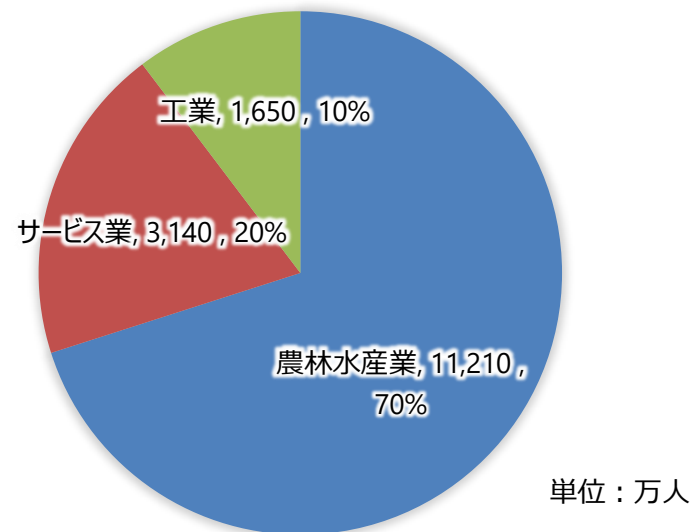
1. 食のサステナビリティに関する国際的な潮流

- 1-1 気候変動
- 1-2 森林・生物多様性
- 1-3 食品ロス・廃プラ
- 1-4 人権・労働
- 1-5 品質・安全
- 1-6 健康・栄養
- 1-7 動物福祉

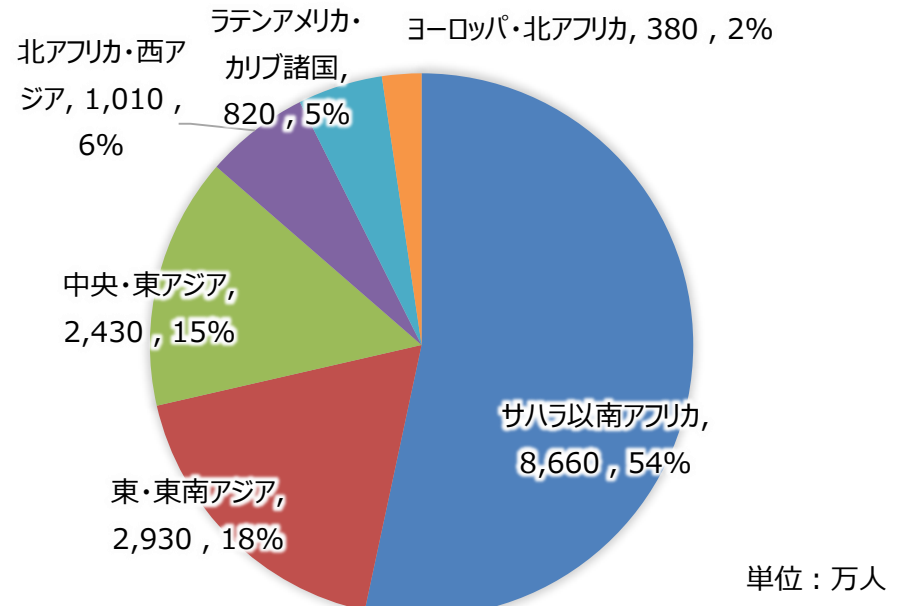
児童労働者のうち、70%が農林水産業に従事

- 国際労働機関（ILO）とUNICEFの共同報告書「児童労働：2020年の世界推計～傾向と今後の課題～」によると、全世界の児童労働者（5～17歳）は1億6000万人と推計。うち70%が農林水産業が占める
- 世界の児童労働者の半分以上が、サハラ以南アフリカ（サハラ砂漠より南のアフリカ地域）に存在し、およそ4人に1人の子どもが児童労働に従事していると述べている。その他、中央・南アジア、東・東南アジアでの児童労働者数が多く、これらの生産国・加工国とする輸入原材料は注意が必要

産業別の児童労働者数（5～17歳）



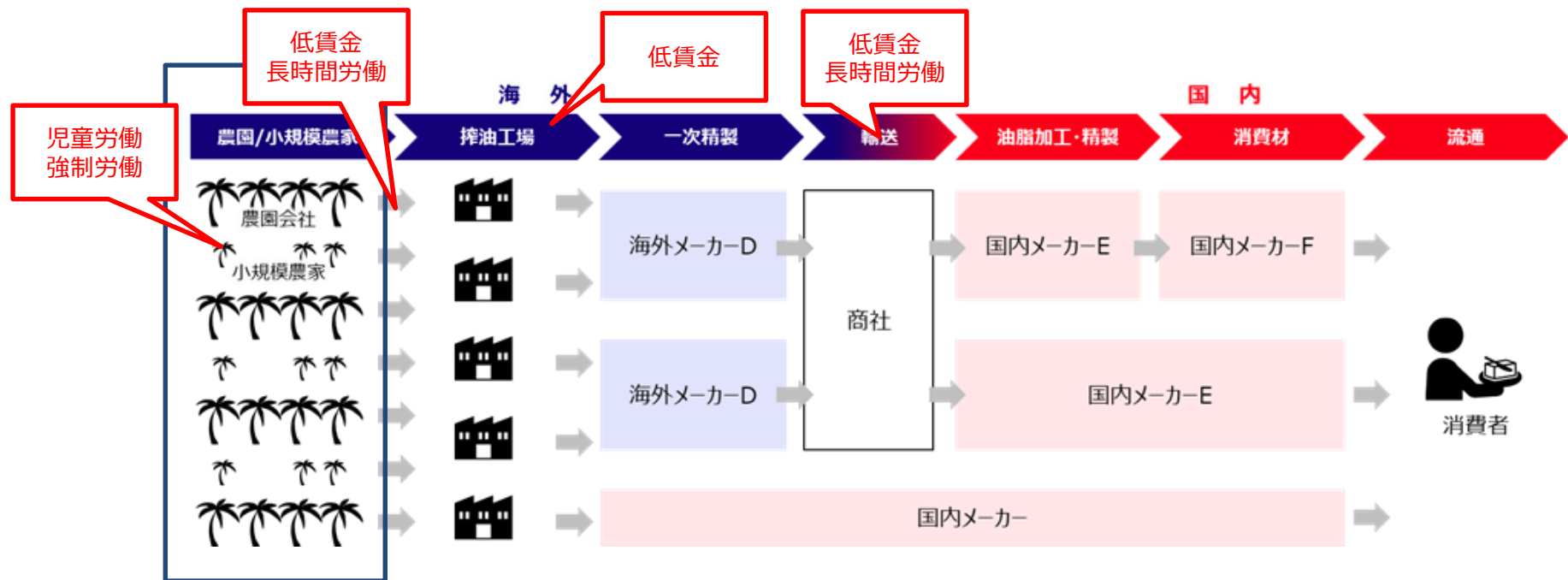
地域別の児童労働者数と児童労働者の割合（5～17歳）



（資料）ILO, UNICEF「Child Labour: Global estimates 2020, trends and the road forward」よりみずほリサーチ&テクノロジーズ作成

サプライチェーンと人権

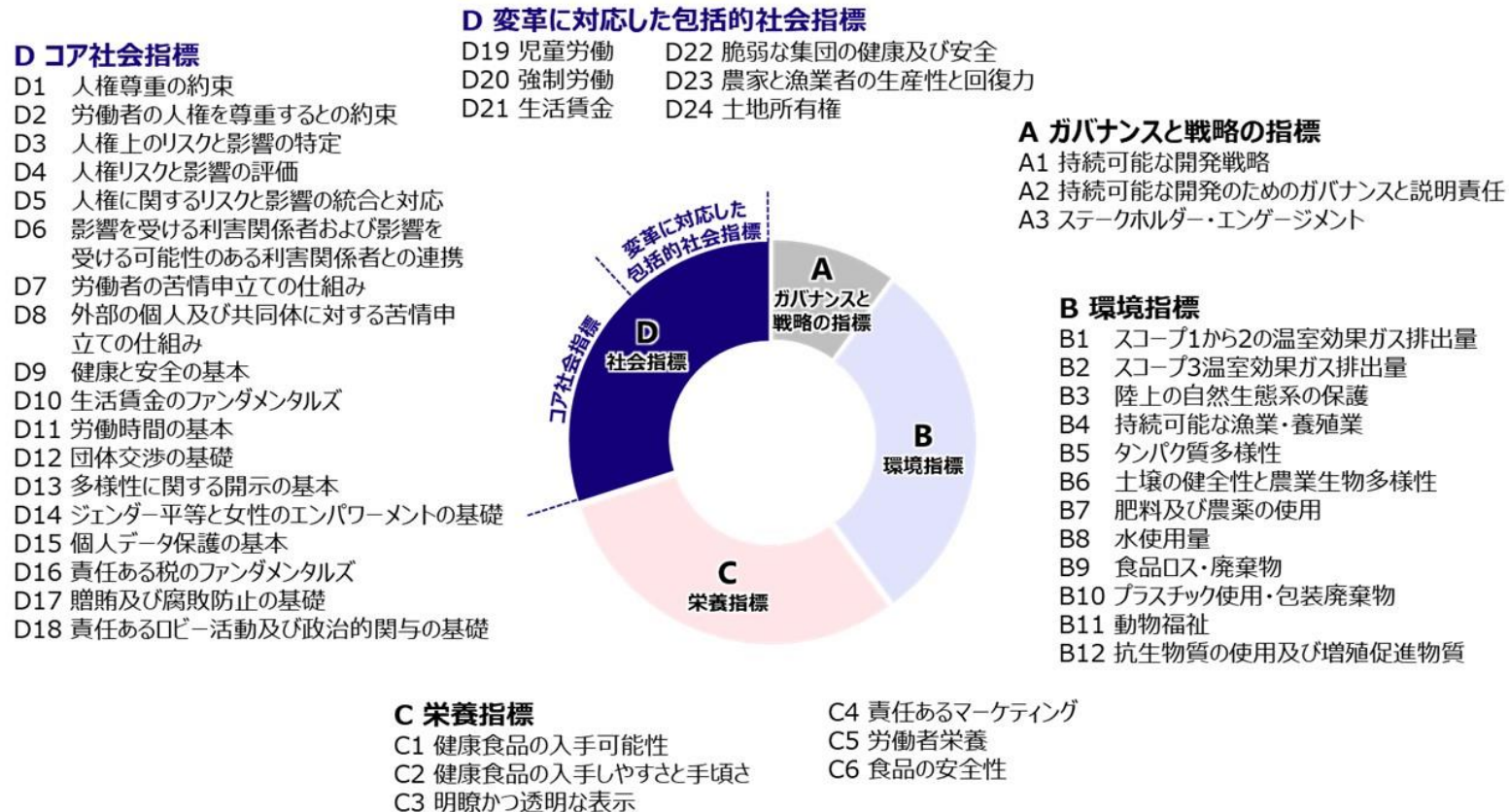
- パーム油のサプライチェーンは、下流から順に農園・小規模農家、搾油工場、一次精製業者、油脂加工・製造、消費財製造の5段階に分類可能
- パームは収穫された後、工場に運ばれ果実あるいは種子から搾油される。採られた粗パーム油（原油）は一次精製拠点に運ばれ、一次精製される。インドネシアやマレーシアでは、これらの精製拠点が湾岸部に分布し、そこから精製パーム油が輸出されている
- 米国税関国境保護局（CBP）は2020年12月、強制労働を理由にサイム・ダービー・プランテーション（マレーシア）が製造したパーム油及びそれを含む製品に対する違反商品保留命令（WRO）を発表。2022年1月には、同社が強制労働を用いてパーム油などを製造していると正式に認定した



World Benchmarking Alliance が示した食に関連するリスク指標

- World Benchmarking Alliance (WBA)は、世界の主要企業2000社を評価する、世界標準のベンチマークをつくるプロジェクトの総称。Methodology for the Food and Agriculture Benchmarkでは、以下のような農林水産業・食品産業の特性を踏まえた指標をリストアップし、無償で提供している

World Benchmarking Alliance が示した食に関連する指標例



(出所) World Benchmarking Alliance より、みずほリサーチ＆テクノロジーズ作成